

良い季節になりました。

広島ではゴールデンウィークにフラワーフェスティバルという大きなお祭りがあり平和公園を中心に華やかなパレードやステージでの催しで賑わいました。

その賑わいの中を横切るようにすぐ近くの会社に出勤した私ではありましたが・・・実は五月は私事でも多忙な月だった為、俳句を作るという落ち着いた日常ではなく俳句スランプ月間でもあったのです。

そんな中早々にうさおさんの投句、そして健さんからも体調不良の中での投句を頂きました。ありがとうございました。

まずはうさおさんの句です。

いくばくか頭痛はすれど花冥利

春はなんとなく体調もすぐれない気分も少し憂鬱・・・そんな時桜に出会ったのですね。面白い句になっています。

ただ、いくばくか・・・と言ってしまうと説明っぽくなってしまいますので

*頭痛とは言へど満開花冥利（満開と花が付き過ぎかな～）

桜舞い川一面の緋毛櫛

下五は何と読むのですか？緋毛毳ではないし、櫛ですよ・・・読み方があるのでしょうか？桜舞いを花舞とされると句が締まります。

*花舞や川一面の緋毛櫛

欄干に凭れて仰ぐ山桜

凭れる、仰ぐと動詞が重なるので（動詞は一句にひとつの方がすっきりします）

*欄干に凭れれば花吹雪かな

濃いは桃薄きは桜黄水仙

面白いです。季重なりを指摘されるかもわかりませんが

わざとこんな風に重ねて春の花を持ってくるのも斬新で良いと思います。

より俳句らしくするのなら・・・

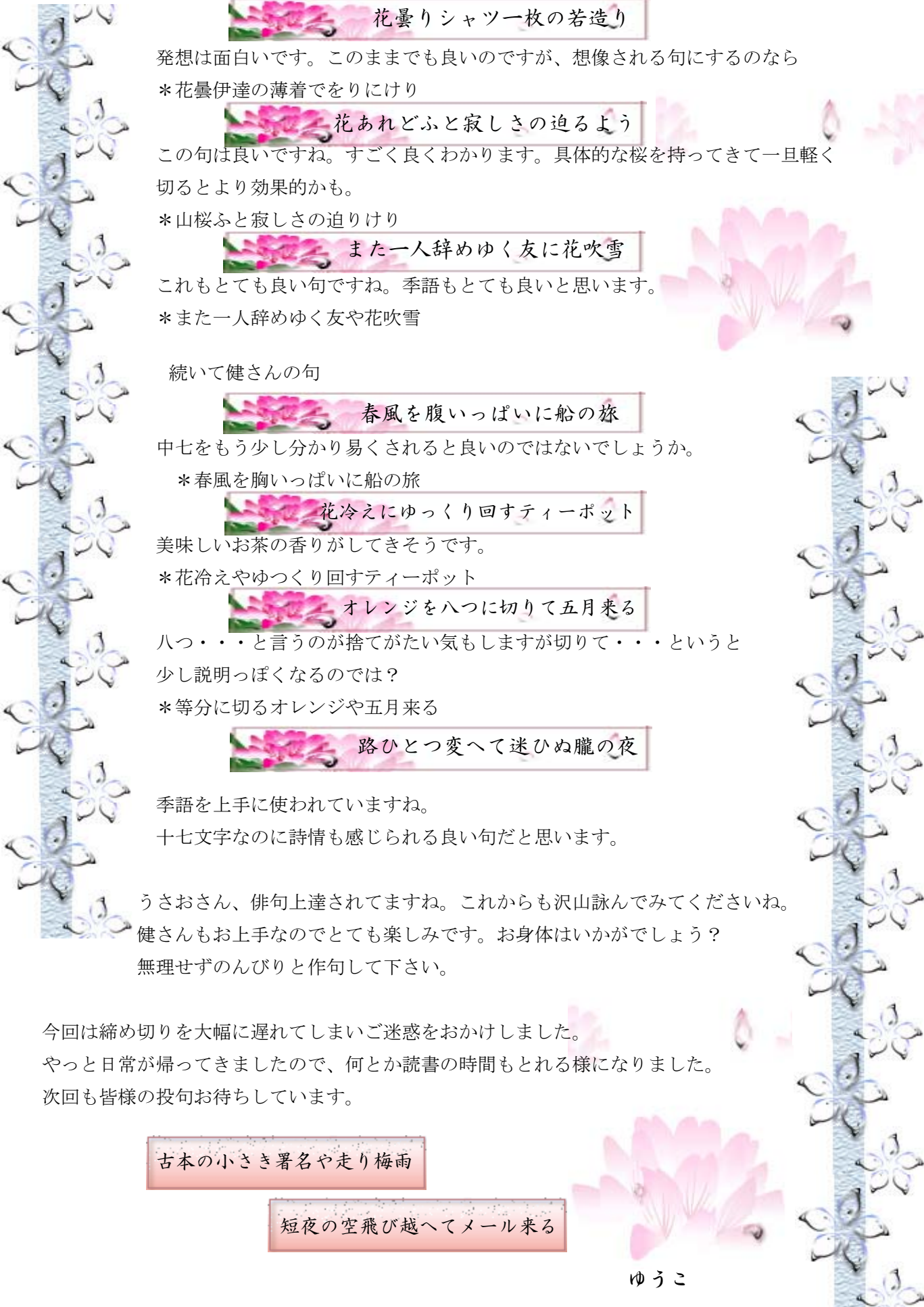
*濃いは桃淡き桜や黄水仙

つま先で筥の嶺そっと蹴り

蹴るというより躓くでしょうか。こんな所に筥が・・・との驚きも入れると良いのでは。

*おもはずもこの筥に躓けり





花曇りシャツ一枚の若造り

発想は面白いです。このままでも良いのですが、想像される句にするのなら

*花曇伊達の薄着でをりにけり

花あれどふと寂しさの迫るよう

この句は良いですね。すごく良くわかります。具体的な桜を持ってきて一旦軽く切るとより効果的かも。

*山桜ふと寂しさの迫りけり

また一人辞めゆく友に花吹雪

これもとても良い句ですね。季語もとても良いと思います。

*また一人辞めゆく友や花吹雪

続いて健さんの句

春風を腹いっぱい船の旅

中七をもう少し分かり易くされると良いのではないのでしょうか。

*春風を胸いっぱい船の旅

花冷えにゆっくり回すティーポット

美味しいお茶の香りがしてきそうです。

*花冷えやゆつくり回すティーポット

オレンジを八つに切りて五月来る

八つ・・・と言うのが捨てがたい気もしますが切りて・・・という少し説明っぽくなるのでは？

*等分に切るオレンジや五月来る

路ひとつ変へて迷ひぬ朧の夜

季語を上手に使われていますね。

十七文字なのに詩情も感じられる良い句だと思います。

うさおさん、俳句上達されてますね。これからも沢山詠んでみてくださいね。健さんもお上手なのでとても楽しみです。お身体はいかがでしょう？無理せずのんびりと作句して下さい。

今回は締め切りを大幅に遅れてしまいご迷惑をおかけしました。

やっと日常が帰ってきましたので、何とか読書の時間もとれる様になりました。

次回も皆様の投句お待ちしております。

古本の小さき署名や走り梅雨

短夜の空飛び越へてメール来る

ゆうこ